

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

お問い合わせ担当; 武花 勇一 (takehana@t-s-r.co.jp)

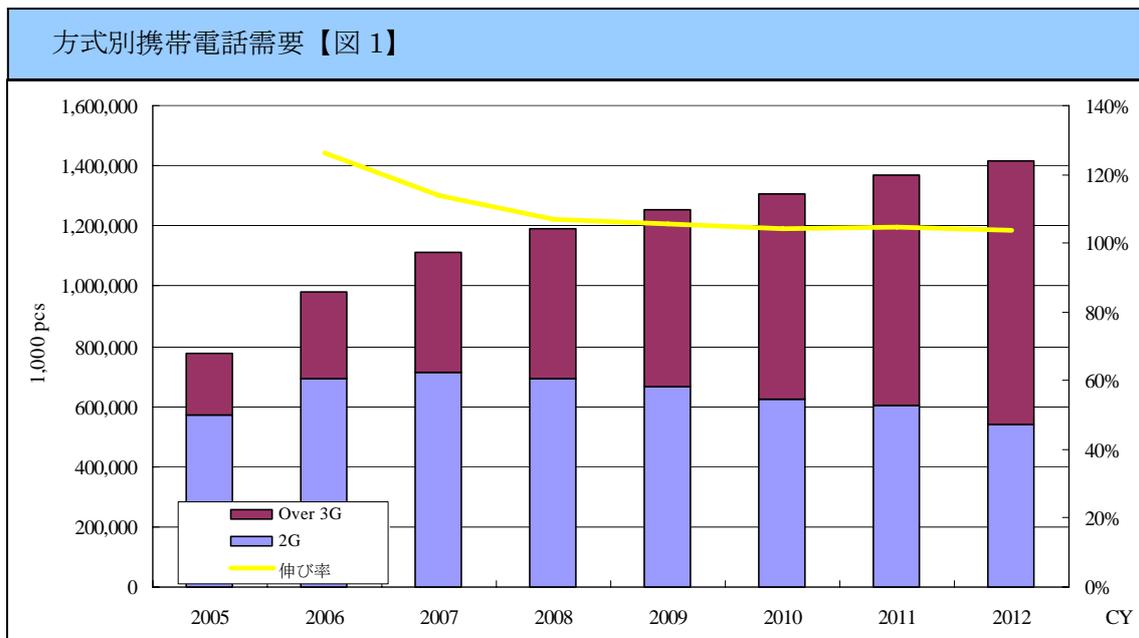
電話: 03 (3866) 4505

テクノ・システム・リサーチ

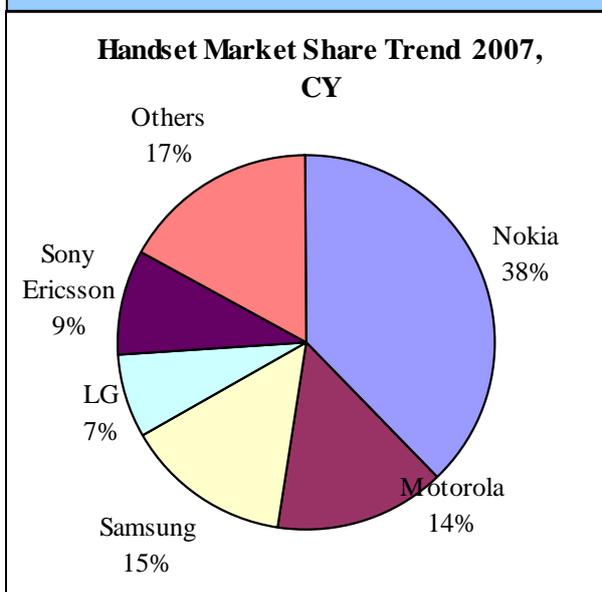
『2006-2007年 携帯電話市場統計』を公表

株式会社テクノ・システム・リサーチ（所在地：東京都千代田区岩本町3-7-4、代表取締役：藤田正雄、TEL：03-3866-4505）は、国内及び海外の携帯電話市場の市場統計調査、調査結果を発表しました。

今回の調査によると2007年の携帯電話需要は11億1,300万台(対前年比113.7%増)となる見込みです。アフリカやラテンアメリカ、アジアなどの新興国向けの需要が引き続き好調に推移し、引き続き新興国向けの需要により市場は拡大するものの、新規加入者の飽和により、伸び率が低下する可能性が高くなっております。【図1】



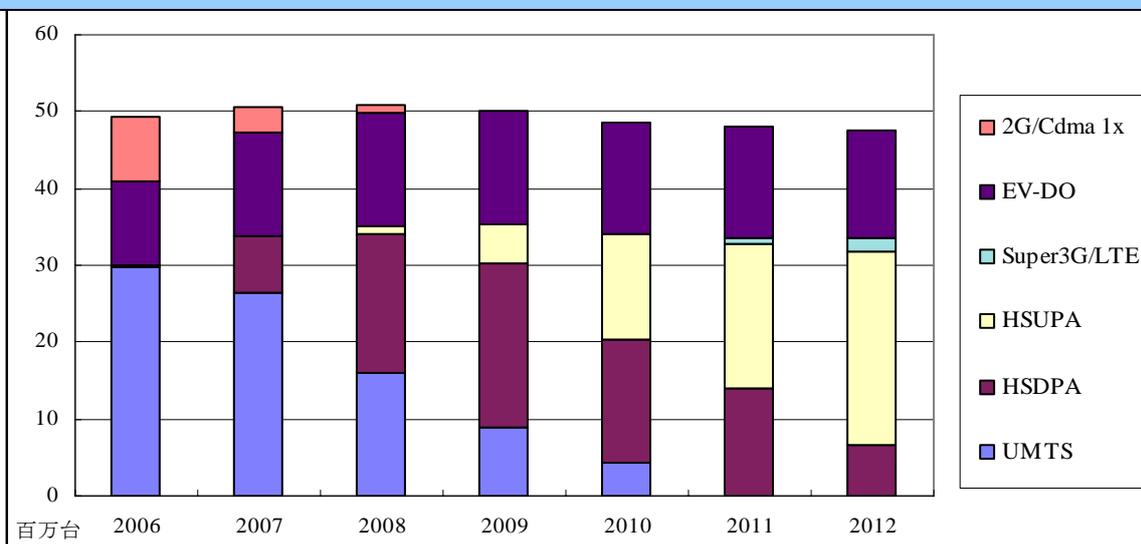
2007年携帯電話メーカーシェア【図2】



メーカー別では 2006 年後半からモトローラの不調が続いています。2004 年末から発売された薄型モデル RAZR V3 により大幅な販売量の増加が続いていたものの、後継機種に恵まれずシェアを大幅に落としています。

一方、他のトップメーカーでは販売量を躍進させシェア拡大を図っています。【図2】

国内 方式別携帯電話需要【図3】



日本国内市場では 2G 規格である PDC から 3G への移管が完了しはじめ、3.5G 規格である HSDPA も 2007 年から急速に拡大しており、4G を見据えた規格の移行が進んでいます。

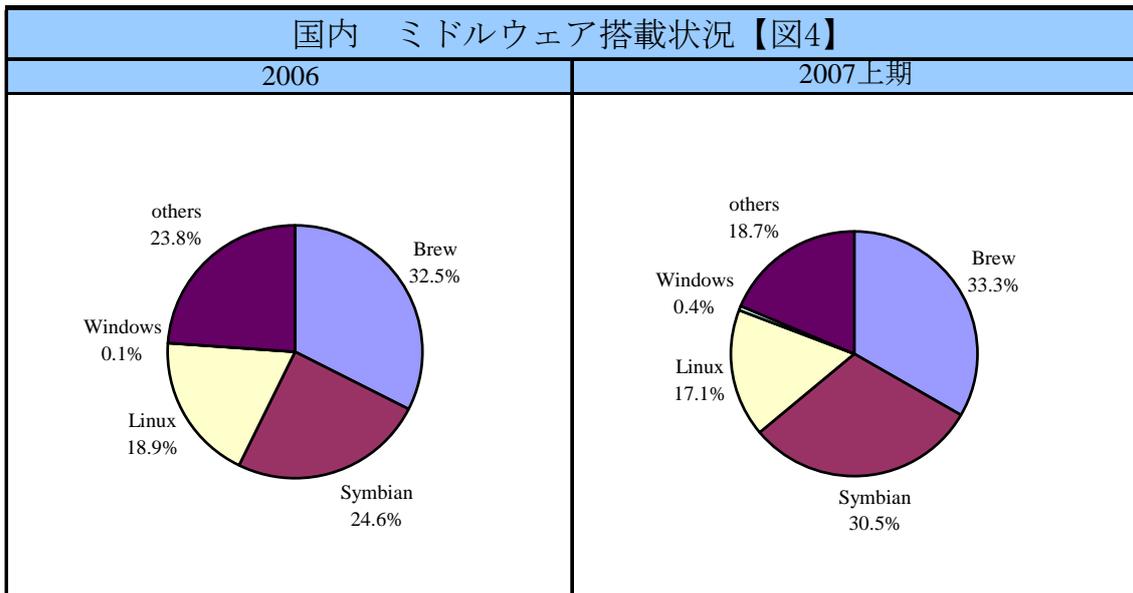
【図3】

一方、ナンバーポータビリティが開始され、SIM ロック解除や補助金の見直しなど通信の規制緩和に伴うビジネスモデルの変化が起こり始めています。

Units: 1,000 pcs

国内ミドルウェア搭載状況【表1】		2006	2007 1st
	Linux	9,311	4,758
	Symbian	11,747	8,395
	Brew	16,015	9,273
	Windows	53	108
	others	12,084	5,285
		49,210	27,819

※データカード除く

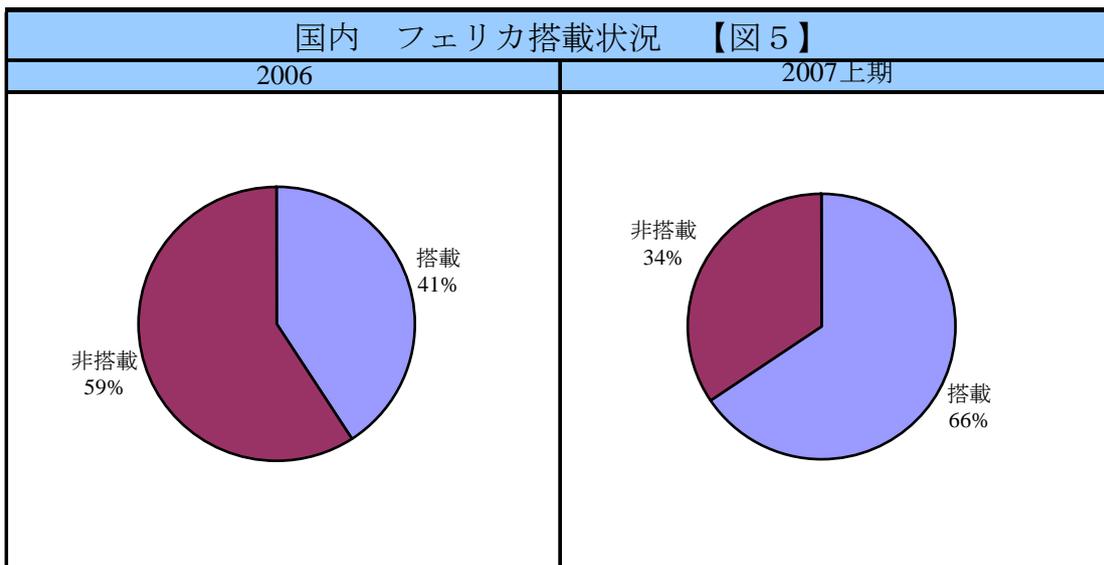


日本国内市場における携帯電話向けミドルウェアは、2006年から2007年にかけて、大きなシェアの変動はありませんでした。【表1】、【図4】 今後は、携帯電話のハイエンド化や通信会社によるプラットフォームの統一化などから、NTT DoCoMo や Softbank で、Symbian や Linux の採用が増加することが見込まれています。なお、キャリア別では Docomo では Symbian、Softbank では Brew の搭載が主流となっている。KDDI は Brew のみを採用している。

Unit: 1,000 pcs

国内 短距離無線機能 搭載状況【表2】		2006	2007 1st
	BT	9,526	7,393
	WLAN	70	184
	赤外線	43,436	26,674
	Felica	20,036	18,202

※データカード除く



BT、無線 LAN といった短距離無線機能は、日本国内向けの機種では採用が進んでおりません。これに対し、フェリカやモバイル Suica といった携帯電話での決済の機能の搭載率は、2007 年に大幅に増加しました。【表 2】【図 5】今までの決済機能の搭載は、国内のハイエンド機種での搭載が主だったのに対し、一部のミドルエンド機種に搭載が始まったことが、搭載率増加の一因とみられます。

このほか、当レポートにおいては、日本国内向け携帯電話端末の長距離無線方式、筐体サイズ、ディスプレイ、カメラ、各種センサーなどの採用状況を、セットメーカー別・キャリア別に集計・分析しております。